

目指せ!なのはな米1等比率95%以上継続! ~「R4 JAなのはな米品質向上運動」実施中~

今年も高品質で美味しい「なのはな米」の生産を目指し、高温に打ち勝つ米づくりに努めましょう。
コシヒカリは5月15日を中心とした田植えを基本とし、田植時期に合わせた計画的な育苗作業により、健全な苗づくりに努めましょう。

1. コシヒカリの育苗計画

消毒	浸種開始	播種	田植え	(育苗日数)	出穂期
4/7(木)	4/8(金)	4/19(火)	5/10(火)	(21日)	8/1頃
4/16(土)	4/17(日)	4/26(火)	5/15(日)	(19日)	8/4頃
4/24(日)	4/25(月)	5/3(火)	5/20(金)	(17日)	8/7頃

育苗日数が長く葉齢の進んだ老化苗を植えると、初期分げつの発生が少なく、出穂が早まる傾向が見られます!
育苗日数は19日間以内を目安としましょう。



2. 育苗スケジュールと作業内容

※細菌性病害対策として、育苗期間を通して目安温度より高温にならないよう注意しましょう!

月日	作業	温度管理	作業管理のポイント																		
4/16	比重選 種子消毒	水温10°C以上を確保 (12°Cが最適)	① 比重選で種籾を厳選 ~病気や発芽不揃いをしっかり予防~ ・ 硫安による発芽障害を防ぐため、比重選した種籾は水洗いを行う。 ② 種子消毒を徹底し病害の発生を予防(必ず化学農薬で消毒) ・ モミガードC水和剤200倍液 で24時間浸漬する。 (種籾10kgに対し、水20ℓ、薬剤100gの割合とする。) ・ 水和剤は溶けにくいので、水は15~20°Cのぬるま湯で必要量を準備し、よくかき混ぜる。 ・ 消毒中、種籾袋を2~3回上下に攪拌し、種子を完全に浸漬する。 ・ 消毒液の使用は1回限り(繰り返し使用しない)。																		
4/17	浸種	水温10~15°Cを確保	③ 浸種は積算温度を十分に確保 ~水温×日数=積算温度100~120°C程度が目安~ ・ 催芽を揃えるため水温は10~15°C とし、籾容量の2倍の水に浸漬する。 (特に、 浸種を開始した初日の水温確保(12~13°C) が重要!) ・ 2日に1回は水を交換し、酸素不足を防ぐ。 ・ 水温が上がり過ぎないように日光が直接当たらない場所(日かげ等)に設置する。 ・ 水温が高くなり芽が伸びる恐れがある場合は、冷たい水に浸ける。 ※浸種期間の後半になったら 必ず籾を確認し、芽が動いていたら浸種を終える 。																		
4/25	催芽	育苗器温度28~30°Cで20~24時間	④ 芽が伸び過ぎないように、こまめにチェック ・ 催芽をそろえるため、1日2~3回袋を反転させる。 ・ 均一に播種するため、種籾の水切り(脱水)は十分に行う。 (籾が手に付かない程度にまで陰干しを行う)。																		
4/26	播種 出芽	育苗器温度30°Cで2~3日	⑤ 播種量はうす播き(乾籾120g/箱)が基本 ・ かん水量は、床土の表面に水がにじみ出る程度とする。 ・ 厚播き、ムラ播きに注意する。 ⑥ 育苗器の温度は30°Cが適温~こまめに温度や出芽状況をチェック~ ・ 事前にサーモスタットの温度計測が正確なのか確認する。																		
4/29	搬出 緑化	ハウス内温度 昼: 25°C以下 夜: 10°C以上	⑦ 芽の長さが1cmに揃ったら搬出 ・ 搬出時には、覆土を落ち着かせるため、 必ずかん水 する。 ・ 日射が強く 高温の場合は搬出直後でも換気 する。 ・ 約3日間被覆した後、 緑化した後は速やかに被覆資材をはずす 。 ・ 育苗ハウスのビニールを新しくした場合、光の透過率が高いので、温度管理に注意する。																		
5/1	硬化		⑧ ハウス内の温度が25°C以上にならないよう換気を徹底 ・ かん水は朝にたっぷり行い、日中は床土の乾きに応じて行う。 (床土の種類によって水持ちや乾き方が違うので、床土を変更した場合は注意!) ・ 田植えの7~10日前からは昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす。																		
5/15	田植え		○育苗期間中の病害対策 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病害</th> <th>使用薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>散布量</th> <th>防除時期</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白カビ、青カビ</td> <td>ダコレート水和剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種14日後まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>ムレ苗、苗立枯病</td> <td>タチガレエースM液剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>発芽後</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数	白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内	ムレ苗、苗立枯病	タチガレエースM液剤	500倍	500cc/箱	発芽後	1回
対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数																
白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内																
ムレ苗、苗立枯病	タチガレエースM液剤	500倍	500cc/箱	発芽後	1回																

○比重選液の作り方の目安

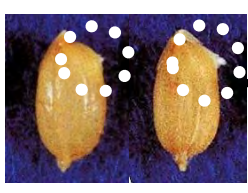
種籾	比重	硫安(水10ℓに)
うるち	1.13	2.5kg
もち	1.08	1.5kg



※早生・中生品種の浸種の日目安

水温	浸種日数
10°C	10~12日間
15°C	7~8日間

○催芽の目安
ハト胸~2mmまで



※浸種の開始を早めない!
冷たい水に長く漬けるのではなく、適温の水に10日程度しっかり漬けて積算温度を確保しましょう!

※ハウスの強風対策は万全に!
強風が予想される場合は、予め育苗ハウスのビニールや防風ネット等の損傷やゆるみなどを点検し、必要に応じて補強しましょう!

低温が予想される場合は搬出を見送るか、搬出時のかん水はせずに被覆資材で保温に努める。

かん水に用水を用いる場合は、ムレ苗に注意!

春の土づくり

～気象変動に強い稲体づくりは「土づくり」から～



高温や多雨などの気象変動に打ち勝つ米づくりのためには、強い稲体づくりが大切であり、その土台となる「根」を育てる「土づくり」が重要です。

土づくり資材や有機物の施用や深耕による「春の土づくり」で、地力の向上に努めましょう。

1. 土づくり資材の施用

- 珪酸は稲の茎葉を丈夫にし、葉を直立させる効果があるほか病害虫に対する抵抗性を高めるなど、収量・品質の向上に効果の高い成分です（図1）。また、近年、発生が増えているごま葉枯病は、珪酸分のほか、カリ、鉄分含量などの低下により発生が増加します。**耕起前に土づくり資材を確実に施用**しましょう（表1）。
- 腐植が少ない砂質や砂壤土等のほ場では、**発酵鶏ふんなどの有機物を積極的に施用**し、地力の維持や向上（カリ等の補給効果有り）に努めましょう。
- 土づくり資材の施用は継続**することで効果が現れます。**昨年の秋に施用していない場合は、必ず春に施用**しましょう。

表1 主な土づくり資材の施用の目安

資材名	施用量(10a 当たり)	特性等
珪酸石灰	200kg	葉や稈が丈夫になり、耐倒伏性や耐病性が向上します。
シリカロマン	100kg	珪酸、アルカリ分、リン酸、苦土、鉄分などが一度に散布できます。
シンキョーライトP	60kg	含有成分のゼオライトは保肥力を高めます。根張りを良くし、安定収量と品質向上につながります。
新アサヒニューテツ	100～150kg	珪酸のほか、鉄、苦土等を含んだ資材です(ごま葉枯病が多発するなど鉄不足のほ場に適した資材)。
スーパーけいさん鉄	100kg	珪酸のほか、鉄分を多く含んだ資材で、アルカリ分も高く、土壌の酸度矯正につながります。
発酵鶏ふん	(春施用) 75～100kg	腐植含量を高め、カリ等も補給できます。

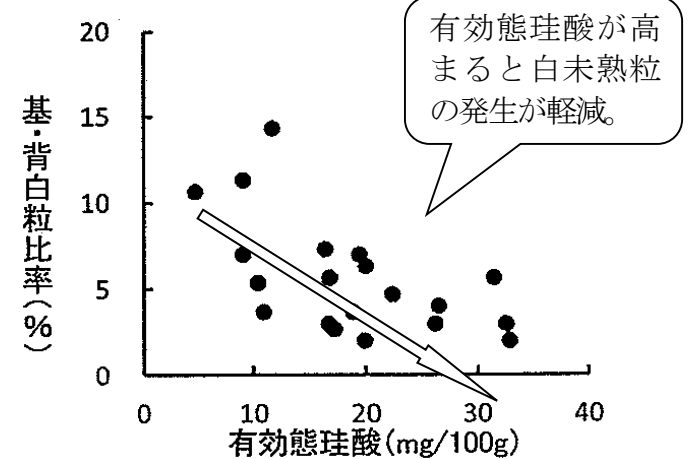


図1 有効態珪酸と基・背白粒比率の関係 (H25 県土壌分析結果)

※発酵鶏ふんを春に施用する場合は、基肥を窒素成分で1～2kg/10a 減肥する。

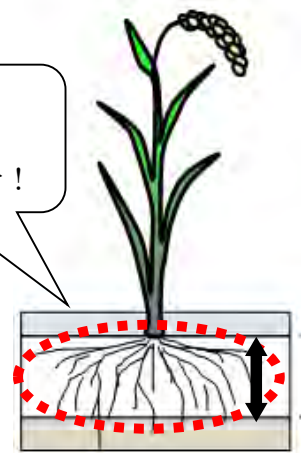
(例) Jコートコシヒカリ1号 (窒素成分21%)

40kg/10a 施用の場合、30kg～35kg/10a 程度に減肥する。

2. 深耕の実施

- 深耕によって作土層を深くすると、根圏が広がり、根が十分に伸びることができます。深く伸びた根は収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質の向上につながります。
- 耕起の際は、トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、**作土の深さ20cmを目標に、最低でも15cm以上の確保**を目指しましょう。

深耕でしっかり根を張らせて、稲体活力維持を！



令和4年 春の農作業安全確認運動

4月1日～5月31日

「しめよう！シートベルト」

春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。農場や用水路の危険箇所の把握・改善や余裕をもった作業計画など、事故を未然に防止する対策を徹底しましょう。



トラクター運転時にはシートベルト装着!!
※昨年、全国でトラクターの転落・転倒事故が多発しました。

なのはな農協では、皆様に**電子メールによる営農情報の提供**を行っています。

【情報提供内容】

- 栽培管理情報
- 緊急的な気象情報と災害防止対策
- 緊急的な管理情報
- その他必要と思われる情報

【提供情報例】

春一番の作業として、まずは土づくりを行いましょう。地力向上のため、昨秋に土づくり資材や発酵鶏ふん等の有機物を施用していない場合は、必ず施用しましょう。今後の育苗作業は、5月15日を中心としたコシヒカリの田植えにあわせ計画的に行いましょう。

営農情報提供サービスへの登録はこちらから



http://argo-navi.net/ja/mb_login.php